見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

August 2023 vol.112

◆関東大震災探索まちあるきルート

大正 12(1923) 年 9 月 1 日に発生した関東大震災から今年で 100 年になります。地震の後、名古屋では多くの被災者の受け入れを行っており、各地に慰霊碑や供養碑などが残されています。今月は、関東大震災にまつわる史跡を巡る、名古屋市千種区のまちあるきルートを紹介します。

スタートは地下鉄自由ヶ丘駅からすぐ、日泰寺の墓地内にある**関東大震災惨死者供養塔**（地図①）です。この供養塔は、震災から約 3 年後の大正 15(1926) 年 8 月に建立されたもので、背面には世話人の、右面には寄付者の住所氏名が記載されています。世話人と寄付者の住所を現在の住所と対応させると、中区、東区、中村区、西区、熱田区などとなっており、被災者の受け入れにあたった方々による建立であると考えられます。

関東大震災
惨死者供養塔

続いては、同じ日泰寺の墓地内にある**橘宗一少年の墓**（地図②）です。橘宗一少年は、明治大正のアナーキスト大杉栄の妹あやめの子です。当時、橘一家はアメリカに住んでいましたが、大震災の直前にたまたま日本に帰国しており、大震災に乗じ大杉が軍部に殺害された甘粕事件に巻き込まれて、少年も殺されてしまいます。お墓は父親の惣三郎が、宗一少年が 10 歳になる日に建立したもので、現在は日泰寺内に墓地が整備されています。

橘宗一少年の墓

少し歩くと、次は**関東大震災横死者追悼之碑**（地図③）です。この碑は、地震が発生した日からほぼ 100 日目にあたる大正 12(1923) 年 12 月に建立されたもので、百か日法要に合わせて建てられたものと考えられます。背面には「名古屋市東区蒲焼町青年団 世話人町役員一同」とあり（蒲焼町は現在の中区錦三丁目付近）、地元青年団が主体となって建立されたものです。

関東大震災
横死者追悼之碑

続いては、**関東大震災供養堂**（地図④）です。この供養堂は、大震災の犠牲者を供養するもので、日泰寺奉安塔の入口横に建てられています。建設は「萬燈会創立二十周年記念事業」として行なわれました。萬燈会は覚王山の山内及びその東方へ電燈を施すことを目的とした団体で、供養堂は、この萬燈会により寄付が集められ創設されています。なお、現在でも震災の日の 9 月 1 日には御堂の扉を開けて供養が行われています。

関東大震災供養堂

最後は**日泰寺**（地図⑤）です。明治 31(1898) 年、インドで釈迦の遺骨が発見され、仏教国であるシャム（暹羅、現在のタイ）の王室に寄贈されました。当時のシャム国弁理公使・稲垣満次郎は、国王に釈迦の遺骨の分与を懇願し、下賜を受けることとなります。この遺骨を安置するために、超宗派の寺院として建立されたのが日泰寺（当時は日暹寺、シャムからタイへの改名により日泰寺に改称）です。名古屋の官民一致の熱心な誘致運動の結果、明治 37(1904) 年に覚王山日暹寺が誕生しました。ご本尊はシャム国国宝の釈迦金銅仏一体で、釈迦の遺骨は奉安塔に安置されています。

日泰寺

◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

関東大震災後、愛知県では 15 万人余りの被災者の受け入れを行っていますが、関東大震災供養堂の由来碑によれば、「日運寺は各講員を動員して毎日名驛頭に派し流浪せる避難民を収容宿泊せしめ救済に務たり」とあり、日泰寺で多くの避難民の受け入れを行っていたことがわかります。

碑や史跡を巡ったら、まちあるきの最後は**日泰寺の参道**（地図⑥）をぶらぶらしつつ地下鉄覚王山駅へ。日泰寺の参道には様々なジャンルのお店が並んでいます。カフェやレストラン、食堂に、おでんをつつきながらお酒を飲めるお店、また、ケーキ屋さんやチーズとはちみつの専門店もあります。アクセサリーや食器など、雑貨も充実しています。東山通りに出ると、名古屋名物鬼まんじゅうの名店もあります。覚王山では、季節ごとに春祭、夏祭、秋祭が催され、10 月から 11 月にかけては、まちがアートでいっぱいになる覚王山参道ミュージアムも開催されます。毎月 21 日には縁日も開かれ、いずれも盛り上がりを見せています。

日泰寺参道

自由ヶ丘駅、覚王山駅から 2 駅の名古屋大学駅にある**名古屋大学減災館**では、来年の 3 月にかけて、特別企画展「関東大震災」が開催されています。また、2 階の減災ライブラリーでは、昔の地震についての資料を収めた歴史地震アーカイブや市町村史などが閲覧できます。まちあるきの予習に、あるいはまちあるき後に復習に足を運んでいただくと、まちあるきが充実します。

減災ライブラリー

関東大震災後、名古屋の人々は、たくさんの被災者を温かく受け入れました。今回のまちあるきでご覧いただいた関東大震災にまつわる碑や史跡の数々は、当時の人々の気持ちの表れであるといえます。

さて、今日、東京で大きな地震が起こったらどうなるでしょう。関東大震災より、多数の被災者を受け入れる必要があるかも知れません。さらには、この地域でも南海トラフ地震の発生が迫っていると言われています。備蓄品の用意など、普段の生活から少しずつ余裕をもつことを意識し、耐震補強や家具の転倒防止を進め、地震に備えましょう。

★ 名古屋城夏まつり

毎年 8 月上旬からお盆にかけて、名古屋城の夏を彩る名古屋城夏まつりが開催されます。（2023 年は 8 月 5 日から 8 月 15 日）

まつりの期間中は連日午後 6 時から、檜造り、名古屋提灯で飾られたオリジナル「盆踊り櫓」で盆踊りが催されます。また、ふわふわのかき氷や名古屋めしが味わえる鯱食堂や、名古屋城オリジナルゲーム「シャチ釣り」、本場弥富の金魚すくい（8 月 5,6 日）、火縄銃の実演（8 月 13 日）などが予定されており、夏の名古屋を大いに盛り上げてくれます。重要文化財の西南隅櫓の特別公開（8 月 13 日まで）も行われます。期間中は名古屋城の開園時間が午後 9 時まで延長されます。

Aichi Now HP より

～鉄道で巡る～

日泰寺へは地下鉄東山線覚王山駅から徒歩約 5 分です。かつて市内には、日泰寺への参詣輸送を目的とした、市電覚王山線が通っていました。

名古屋駅へとつながる栄町線と接続する西裏（現在の千種駅の西）を起点に、広小路通を東へ進み、千種、今池、仲田、池下を経由して覚王山へ到達する路面電車で、明治 44 年に開業しました。

昭和 32 年に地下鉄東山線が開業し、後に覚王山経由で東山公園まで延びると、重複する覚王山線は順次廃止され、昭和 42 年に全廃となりました。

●ブレイクタイム●

♪ 日泰寺奉安塔

まちあるきに登場する関東大震災供養堂は、日泰寺の舎利殿や奉安塔がある敷地脇にあります。

日泰寺奉安塔は、シャム国から下賜を受けた釈迦の遺骨を納める佛塔です。橿原神宮や平安神宮、築地本願寺なども手がけた東大教授の伊東忠太による設計で、完成は大正 7 年、高さ 15m、ガンダーラ様式の花崗岩でできた石塔で、愛知県の有形文化財に指定されています。（一般の方の参拝は手前に少し離れた通天門からとなり、全貌は見ることができません。）

日泰寺 HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災 Seeing』のホームページ（https://www.saitoseeing2020.jp/）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター　2023 年 8 月）